

No.28 生活安全体制の強化＜防災＞ （総務課）

令和5年度までにめざす姿

地域での防災対策や自主防災活動等の重要性を積極的に啓発して組織づくりを進めます。避難行動要支援者をはじめ、町民の安否確認と被害状況を確認する体制を整え、初動活動として町民の協力体制の確立をめざします。

令和元年度にめざした成果

- ①自主防災組織の新規立ち上げと具体的な活動支援（説明会の開催、指定緊急避難場所の選定、防災訓練の実施）を行います。
- ②支え愛マップづくりを通して、集落単位で防災・災害対応意識と行動ができる集落を増やします。
- ③防災士の育成を行います。

令和元年度にめざした活動

- ①自主防災組織の新規立ち上げに向けた説明会を2集落、活性化に向けた説明会を10集落行いました。
- ②社会福祉協議会との連携、情報発信の場を設けます。（上記活性化説明会での紹介など）
- ③集落や協議会を通じて防災リーダーに防災士の資格を取得していただきます。

令和元年度の成果

- ①集落説明会を57/92終了しました。
（今年度10集落及び7協議会で説明会実施）
災害の脅威及び防災の心得の情報共有を行い、自主的に防災活動に取り組む意識が向上しました。
- ②支え愛マップの作成が42/92集落できました。
- ③5名が防災士の資格を取得しました。

令和元年度の問題

- ①5年間で新規立ち上げの集落がありません。
 - ・地域や町民によって自主防災組織の必要性の認識に差があります。
 - ・高齢化により、自主防災組織の活動が衰退しています。
- ②支え愛マップの中で空白地帯があり、原因としては個人情報掲載の同意がとれないという背景があります。
- ③防災士のなり手が不足しています。

令和2年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

- ①地域の防災リーダーと集落担当員との連携を深め、自主防災組織の新規立ち上げ、地区の防災計画の策定を進めることで、活性化を促進します。
- ②支え愛マップは、社協との連携をさらに深め、マップの作成に取り組む集落を増やし、マップを作成した集落のステップアップを図ります。

(2) 解決すべき問題への方策

- ①自主防災組織の新規立ち上げに向けて啓発及び説明会を行います。
 - ・自主防災組織の活性化に向けて啓発及び説明会を行います。
- ②個人情報の取り扱いを明確にし、他地域ではわからないようなマップ作りを進めます。
- ③協議会と連携して広報します。

(3) 新たに取組む方策

- ①自主防災組織の立ち上げと活動の組織化、防災意識向上のための説明会を進めます。
- ②支え愛マップの目的と災害時の個人情報の共有意義と個人情報保護のルール作りを進めます。
- ③防災士の育成及びOBの活用、ネットワークづくりを行います。